事務事業マネージメントシート

真岡市行政評価システム 評価対象年度 令和6 年度

作成日 今	和7 在	∩a E	3 1/	

F110733112							11724 1173 117				
事務事業名	VISCOVICE OF THE PROPERTY OF T										
政策名	4	「都市づく	り」~暮らしやす	さアップ!~		□ 総重(総合計画重点事業) □ 総新(総合計画新規事業)					
施策名	4	公共交通ネ	・ットワークの整備			□ 戦拡(総合戦略拡充事業) □ 戦新(総合戦略新規事業)					
関連個別計画			しごと創生総合戦略 副祉計画 真岡市地域の			単年度のみ					
法令根拠 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 事業期間 □ 毎年度実施 (開始年度 平成23 年度~)											
予算科目	1	一般会計	2.総務費	1.総務管理費	7.企画費		□ 期間限定複数年度(年度~ 年度)				
予算科目											
予算科目						1					
事業概要	平成22年度に策定した「真岡市地域公共交通総合連携計画」に基づき公共交通ネットワークの構築を推進し、平成23年度から、自宅から決められた目的地まで運行する予約制の乗り合いタクシーであるデマンドタクシー(愛称:いちごタクシー)を市内全域で、平成24年度から主にいちごタクシーの目的地を繋ぎ市街地を循環するコミュニティバス(愛称:コットベリー号)の実証連行を開始し、平成26年度時期と(56、平日のみ)平成23年1月4日 デマンドタクシー運行開始(56、平日のみ)平成24年10月1日 コットベリー号運行開始(市内循環線 右回り左回り各1台 計2台 年末年始を除く毎日運行)真岡市地域公共交通活性化協議会において、料金に関すること等について協議し、必要に応じて運行内容の見直し等を行っている。 芳賀赤十字病院の移転を転まえ、いちごタクシー、コットベリー号の運行内容の抜本的な見直しの協議を地域公共交通活性化協議会において行い、平成31年3月4月からコットベリー号をいちごバスに名称変更し、新たなルートと26人乗りバスでの運行を開始した。 令和4年9月から、いちごタクシー予約受付システムを変更し、スマートフォンアプリから予約可能とした。 令和4年10月から、いちごタクシーの運行台数を5台から6台へ1台増車した。										

### 24 名称 学位 3 和文学報 4 再位 3 和文学報 5 中華(深報 5 中華(深報 7 年度) 2 日本のでは 5 中華(深報 7 年度) 2 日本のでは 5 中華(深報 7 日本のでは 1 日本のでは 1 日本のでは 5 中華(深報 7 日本のでは 1 日本のでは	① 手段 (の部 (1)事務事業の目的 活動)			④活	動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移					
・銀行の存在して特金公共の連続では高速での応義。不明本的・100mm 200mm	6年度実統	責							3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込
## 日本語の 2 日本で、1 多変化 15 年代 15 日本 15	・いちごタクシーといちごバスの運行実施 ・運行内容の見直し(地域公共交通活性化協議会での協議、承認を得 て実施)					ア	いちごタクシー運行日数	日	242	243	243	243	242
************************************	・燃料高騰に対する支援として「いちごバス・タクシー運行業務委託 燃料費高騰分支援事業」を実施				1		か所	134	134	133	132	132	
- 高岡市政会が大党副連合での認識、主機報告 - 115にグラクシー、いちごバスの選出内容の別量し - 115にグラクシー選用理数 型 21,780 24,890 25,244 25		7年度計画				ġ	ウ いちごパス運行日数		352	359	360	359	359
②対象部値(対象の大きさを表す指律)の推移	・真岡市地域公共交通活性化協議会での協議、実績報告			I		か所	41	42	42	42	4		
名称 単位 3 年度(実施) 5 年度(実施) 5 年度(実施) 7 年度(現施)						オ	いちごタクシー運行便数	便	21,780	24,030	26,244	26,244	26,13
				や自然資源等		⑤対			· [a 左府/史練)	4 年度(中纬)	F 左府(史練)	○ 左庇(中结)	っ 左座/目ご
2	市民及び	市内名	公共交通利用者			ア							76,49
2 東京 (この事業によって、対象をどう変えるのか)						1							
対象型 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 対象型 (この事業によって、対象をどう変えるのか) を成果指標 (対象における意図された対象の程度) の推移 本位 3 年度(実績) 4 年度(実績) 5 年度(実績) 6 年度(実績) 7 年度(実績) 7 年度(実績) 6 年度(実績) 7 年度(実績) 7 年度(実績) 7 年度(実績) 7 年度(実績) 7 年度(実績) 8 年度(実績) 8 年度(実績) 7 年度(実績) 8 年度(実績) 8 年度(実績) 7 年度(見込) 11,500													
②原図(Cの事業によって、対象をどう変えるのか)						I							
少子高齢化の進展に対応し、市民の日常生活における移動手段を確保する ため、いちごグランー及びいちごパスを護行するとともに必要に応して ア いちごグラシー型辞者数 人 10,164 9,622 10,262 10,905 11, イ いちごグラシー利用人数(延べ) 人 13,683 13,523 15,269 17,753 20, ウ コットベリー号利用人数(延べ) 人 36,572 44,154 53,124 57,680 60, オ 公共交通機関の利用に関する利用者満足度 人 33.4 37.7 40.9 10,005 60, オ 公共交通機関の利用を開する利用者満足度 人 33.4 37.7 40.9 10,005 60, カ 公共交通機関の利用を関する利用者満足度 人 33.4 37.7 40.9 10,005 60, オ 公共交通機関の利用を開き満足度 人 33.4 37.7 40.9 10,005 60, カ 公共交通機関の利用を開き満足度 人 33.4 37.7 40.9 10,005 60, カ 公共交通機関の利用を開き満足度 人 33.4 37.7 40.9 11,005 60, カ 公共交通機関の利用を開き満足度 人 33.4 37.7 40.9 10,005 60, カ 公共交通機関の利用を開き満足度 人 33.4 37.7 40.9 10,005 60, カ 公共交通機関の利用を開き満足度 人 33.4 37.7 40.9 11,005 60, カ 公共交通機関の利用を開き満足度 人 33.4 37.7 40.9 10,005 60, カ 公共交通機関の利用を関する利用を開き着として対策を関するとして、対策を関す						д							
ため、いちごタクシー及びいちごバスを運行するとともに必要に応じて ア いちごタクシー登録者数 人 10,164 9,622 10,262 10,262 10,265 11. イ いちごタクシー利用人数(延べ) 人 13,683 13,523 15,269 17,753 20. ウ コットベリー号利用人数(延べ) 人 36,372 44,154 53,124 57,680 60. オ 公共交通側側の利用に関する利用者測足度 人 33.4 37.7 40.9 2) 総事業費の推移 単位 3 年度(実績) 4 年度(実績) 5 年度(実績) 6 年度(実績) 7 年度(見込) 現	③ 意図(この	事業によって、対象をどう変え	るのか)		6成							
選行内容を見直し、公共交通の利用者の満足度を高める。						 	名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込
ウ コットベリー号利用人数(延べ) 人 ー ー ー ー エ いちごバス利用人数(延べ) 人 36,372 44,154 53,124 57,680 60. オ 公共交通機関の利用に関する利用者満足度 人 33.4 37.7 40.9 2) 総事業費の推移 単位 3 年度(実績) 4 年度(実績) 5 年度(実績) 6 年度(実績) 7 年度(見込) 現実力 地方債 千円 0 0 0 0 リ源 地方債 千円 0 0 0 0 日曜支出金 千円 0 0 0 0 日曜大田 0 0 0 0					2,12,12 0 1	ア	いちごタクシー登録者数	٨	10,164	9,622	10,262	10,905	11,600
エ いちごバス利用人数(遅ペ) 人 36,372 44,154 53,124 57,680 60, オ 公共交通機関の利用に関する利用者満足度 人 33.4 37.7 40.9 7 年度(見込) 2) 総事業費の推移 単位 3 年度(実績) 4 年度(実績) 5 年度(実績) 6 年度(実績) 7 年度(見込) 関東						1	いちごタクシー利用人数(延べ)	٨	13,683	13,523	15,269	17,753	20,327
オ 公共交通機関の利用に関する利用者満足度							コットベリー号利用人数(延べ)	٨	_	-	-	_	-
2) 総事業費の推移 単位 3 年度(実績) 4 年度(実績) 5 年度(実績) 6 年度(実績) 7 年度(見込) 財際 内 訳 地方債 千円 0 0 0 0 0 一般財源 千円 0 0 0 0 0 0 一般財源 千円 0 0 0 0 0 0 一般財源 千円 91,539 95,502 93,629 81,051 84,8					I	いちごパス利用人数(延べ)	٨	36,372	44,154	53,124	57,680	60,276	
国庫支出金 千円 6,360 1,394 1,693 1,138 1,1 県支出金 千円 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0						オ	公共交通機関の利用に関する利用者満足度	Α	33.4	37.7	40.9		
投入量 事業費 財源内 地方債 千円 0 0 0 0 大の他 千円 0 0 0 0 一般財源 千円 91,539 95,502 93,629 81,051 84,8	(2) 総事	業費	の推移	単位	3 年度	(実績)	4 年度(実績)	5 年度	(実績)	6 年度	(実績)	7 年月	度(見込)
投 入 量 関 関 所 内 訳 その他 千円 0 0 0 0 0 一般財源 千円 91,539 95,502 93,629 81,051 84,8	投業が				6,3	60 1,394		1,693	1,138		1,13		
接入 量 業費 内、 III その他 千円 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			∤ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	千円			0 0		0		0		0
- ** その他 十円 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		€ 源	J	千円			0 0	0		0		0	
	入量		てくって	千円			0 0	0		0		0	
事業費計 (A) 千円 97,899 96,896 95,322 82,189 86,0	入費	計					1		1				
	入量	副	一般財源	千円		91,5	39 95,502		93,629		81,051		84,898

*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 2. 1 次評価の部 ①政策体系との整合性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か? 公共交通ネットワークの整備に結び付いている。 また、超高齢社会の進展や運転免許証自主返納者の増加等に対応するために、いちごタクシーやいちごバスの利 便性の向上を図ることで、公共交通の利用者の満足度を高めることができる。 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市が事業に関与する必要があるか? (評価理由) 公共交通機関は市民生活やまちづくりに不可欠な基盤であり、市が行う業務である。 ③対象と意図の妥当性 □ 対象・意図を見直す必要はない □ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か? (評価理由) ・・いちごタクシーは登録制のため、市民に利用者を限定している。 いちごバスは、誰でも利用できることから、公共交通の利用者全般を想定している。 ・・「真岡市地域公共交通計画」においては、急速に進展する少子高齢化や、運転免許証を自主返納する高齢者の増加による、交通弱者の移動手段の確保対策が必要としており、いちごタクシーやいちごバスの運行は、一つの対策として不可欠なものである。 ・対象を限定・追加する必要があるか? ・意図を限定・追加する必要があるか? ④成果の向上余地 □ 向上余地はない □ 向上余地がある ・成果を向上させる余地はあるかどうか?ない場合の理由は適切か? いちごタクシー目的地の需要に応じた変更や、いちごパスのダイヤを利用しやすい時間帯となるよう見直すことなどにより、利便性を高め、成果を向上させる余地がある。また、「知らないから乗らない」方を減らすため、一目でわかりやすいパンフレットを配布し、周知を図ることで利用促進する余地がある。 車内にアンケート回答フォームへ誘導する二次元コードを掲示するなど、利用者の声をくみ取る手段を検討する余地がある。 (評価理由) ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? 有効性評価 ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ■ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名: ・類似事業はないか、統合や連携はできないか? ■ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名: ■ 類似事業はない (評価理由) ⑥事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか? (評価理由) ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか? 必要な運行を行うための、最小の経費である。 効率性評価 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性) □ 統合 いちごバスのダイヤを利用しやすい時間帯となるよう見直すことなどにより、利用者を増やす。 コスト 維持 増加 削減 向上 (2) 課題、課題の克服の方向性 燃料費が高騰しているが、市民の利便性を確保するため、タクシーの台数や運行時間は減少させず維持する。 いちごパスのダイヤを利用しやすい時間帯となるよう見直すことなどにより、利用者を増やす。 成果 維持 低下 4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) (1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり 削減 維持 増加 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)